

GAP 推進に向けた取り組み

(情報・クリーン・有機)

1 課題の背景*****

とりまく状況

1. 労働力不足・働き方改革

- 人手不足、外国人労働者の雇用増加に対応した労働環境整備

2. GAP 認証取得の先行事例の存在

- 別海町の2農場で2018年にGLOBAL G.A.P. 認証、2019年にJGAP 認証を取得

3. 東京オリンピック・パラリンピックの開催

- 食材提供にGAP 認証必要、食品の安全性、食材のPR

畜産（酪農）は農産と比べて、GAP に取り組む農場が少なく、認知度も低い。

★GAP を「する」ことが大事！GAP は本来やっているべきこと。まずは理解が必要。

また、畜産（酪農）特有の取り組みの少ない理由として・・・

自分の家で搾った生乳は他人に飲ませたり渡すことができない

集荷で他農場の生乳と混ざる



差別化や付加価値化がしづらい



利益につながらない

★利益ではなく、働きやすさや効率化など農場環境の改善効果をアピールすべき！

2 活動の経過*****

研修会を通しての情報収集・志向農業者の把握

研修会（組織、地域単位）



- 4/18 法人ネットワーク講演会「酪農業界におけるHACCP、JGAP」*
- 6/10 中標津町第二俣落地区勉強会「GAPについて」（講師：普及センター）
- 7/23 管内指導農業士会現地研修会「GAPの取組事例」*
- 10/8 法人ネットワーク研修会「GAPの取り組みについて」*

*：普及センターは企画提案に関わる

研修会（管内全域対象）



- 8/19 乳牛におけるJGAP認証取得普及セミナーin別海町（主催：JA道東あさひ他）
- 8/20 GAP講習会（企画準備：根室振興局、普及センター）
- 1/16-17 JGAP指導員基礎研修（企画：普及センター、主催：根室生産連）

GAPの取組支援



- 通年 先行農場のGAPに係るPDCAサイクル実践支援（別海町B,C農場）
- 3～12月 JGAP認証取得に向けた取組（中標津町A農場）
- 12月～ GAPの取組開始（別海町D,E農場）

3 活動の成果*****

OGAPについての理解促進

8月20日、審査認証会社から講師を招いてGAPの基礎について講習会を開催した(写真1)。参加人数は農業者、JA、市町など約60名であった。普及センターは講習会の場を借りてGAPに関するアンケートを実施した。GAPに取り組みたい(GAPの仕事に関わりたい)ですか?との問いに回答者の88%が「はい」と答えた(図1)。



写真1 講習会の様子

<参加者の声>

HACCP、GLOBAL G.A.P.、JGAPの違いが分かった。

経営の未来を設定するにはとても有用なtoolであることが理解できた。

従業員1人1人が責任感を持つなど生産以外にも良いことがたくさんあることを知った。

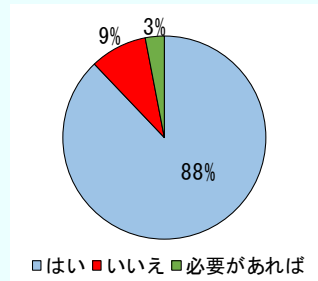


図1 アンケート結果

○取り組んだ農場がJGAP認証取得

2019年3月から中標津町のA農場で認証取得に向けた取組が始まった。

A農場、JA、民間企業、普及センターがチームを組んで、定期的に打合せおよび農場内の整理整頓を実施した。

普及センターはGAPの取組に対する助言や打合せのマネージメントを行った。

A農場からもGAPは農場整備に必要なものだとの声が聞かれた。



写真2 処理室の状況 (左: 改善前、右: 改善後)



写真3 緊急連絡網等の掲示



写真4 審査書類の確認



○新たに取り組む農場の出現

8月のGAP講習会の後、新たに取り組を始める農場が出現したので、スケジュールや取組に対する提案を行っている(写真5)。



従業員や外国人研修生がいるので、働きやすい環境を整えたい。

既に独自で改善に取り組んでいるが、それがGAPの考え方に当てはまることを知ったので、今後はGAPを取り入れていきたい。



写真5 農場との打合せ

4 今後の活動*****

GAP認知度の上昇、農場改善の手段として有効性、GAPの取り組み支援を継続する。